

普及現地情報
令和8年9月10日
奥州農業改良普及センター
記述者 藤原 敏

恒久電気柵の正しい保守点検を学ぶ ～恒久電気柵の現地研修会を開催～

県南地域鳥獣被害防止現地対策チームでは、恒久電気柵の機能維持を目的として「恒久電気柵の保守点検に係る現地研修会」を奥州市江刺伊手地区で9月2日(水)に開催し、水稻や果樹の生産者等40名が参加しました。

研修会では、一般社団法人いであい代表理事の境田氏、サージミヤワキ株式会社の菊池氏の2名を講師に迎え、伊手地区内の恒久電気柵設置の経緯、簡易電気柵と恒久電気柵の違い、漏電状況と対応等について写真や動画を用いて説明がありました。その後、会場に隣接する水田に設置された恒久電気柵を利用して、電圧測定の方法や、緩んだワイヤーの締め直し方、作業機の容易な出入りを考慮したゲートの設置等実演を交えた説明がありました。

生産者からは「冬期にバッテリーを保管する場合、寿命を延ばすための工夫は」「積雪を想定した下段ワイヤーの適切な位置は」等の質問が出され、関心の高さがうかがわれました。

普及センターでは、今後も野生鳥獣による農作物被害の防止に向け、電気柵の設置等の取組を支援していきます。



講演の様子



バッテリー電圧測定の実演